

騒音地域における環境整備調査
報告書



令和7年3月
成田市

目次

1. 調査の目的と概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査の概要	1
2. 基本方針の策定について	2
(1) 地域振興のニーズの把握	2
(2) 地域振興メニューを検討するための基本方針の策定	3
3. 地域振興メニューの策定について	10
(1) 地域振興のこれまでの取り組み	10
(2) 地域振興メニューの策定の考え方	12
(3) 地域振興メニューの全体像	13
4. 地域振興メニュー	14
4-1 目標と方向性	14
(1) 地域振興の目標	14
(2) 地域振興の方向性	14
4-2 地域別の地域振興メニュー	15
4-2-1 中郷地域	15
4-2-2 久住地域	17
4-2-3 豊住地域	19
4-2-4 遠山地域	22
4-2-5 下総地域	24
4-2-6 大栄地域	26
4-3 地域共通の地域振興メニュー	28
4-3-1 「自転車を活用した地域への来訪促進」	28
4-3-2 「地域文化の継承と地域コミュニティ機能の充実」	30
4-3-3 「国・県・空港会社による地域振興策の誘導」	32
5. 基本方針に関連する主要施策の取り組み	34
(1) 地域公共交通対策・買物弱者対策	34
(2) 農業振興	35
(3) 産業振興	35
(4) 空港周辺まちづくり	36
6. 財源の検討	38
7. まとめ	39

1. 調査の目的と概要

(1) 調査の目的

成田空港は世界有数の国際拠点空港であり、平成30年3月には、年間発着容量を30万回から50万回に拡大する成田空港の更なる機能強化の実施が、国土交通省・千葉県・空港周辺9市町・成田国際空港株式会社で構成する四者協議会において合意され、令和5年3月には、空港会社が、旅客ターミナルの再構築、航空物流機能の高度化、空港アクセスの改善、地域との一体的な発展等に関する「新しい成田空港」構想の中間とりまとめを示したところです。

このような背景のもと、地域と空港の共生の実現に向けて、空港のプラスの効果が騒音地域に及ぶよう、当該地域の振興を図っていく必要があります。

本調査は、騒音地域における地域振興のニーズ把握及び地域資源等の分析を行い、2か年をかけて、具体的な地域振興策（以下「地域振興メニュー」）を策定するものです。

(2) 調査の概要

令和5年度

- ・関連計画や地域資源等の整理・分析。
- ・騒音地域における地域振興のニーズ把握。
- ・令和6年度に具体的な地域振興策を検討するための基本方針の策定。
- ・施設整備を伴う地域振興策の事業候補地の選定に向けた、地理的条件等の現況調査。

令和6年度

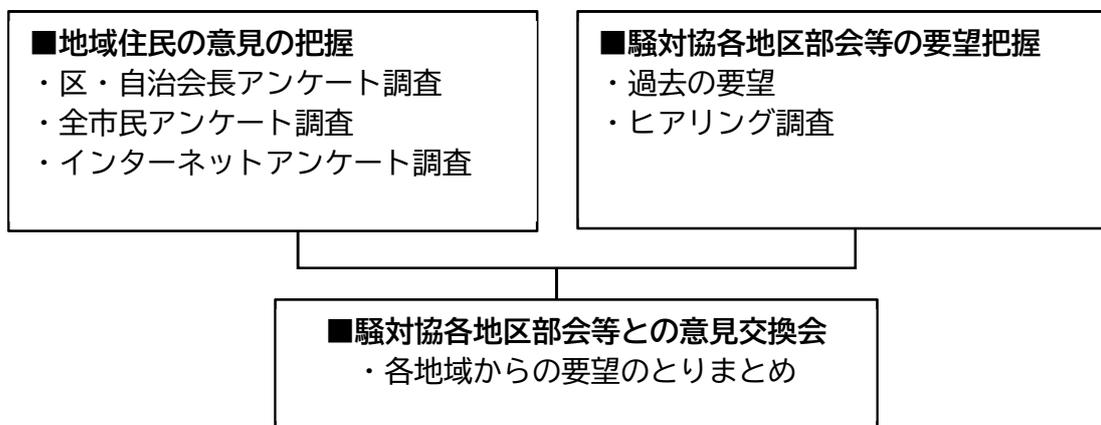
- ・令和5年度に実施した調査内容を分析し、施策の概要、施設整備を伴う地域振興策の事業候補地等を反映させた地域振興メニューのとりまとめ。

令和5年度 (2023)													令和6年度 (2024)												
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
地域特性・資源分析																									
・関連計画や地域資源等の整理・分析																									
ニーズの把握																									
・騒音地域住民団体の要望等の整理、再確認 ・市全域住民の地域振興に係るニーズを把握																									
基本方針の策定													中間とりまとめ												
・令和6年度に地域振興策を検討するための基本方針を策定													・地域振興策ごとに施策概要を整理した 中間とりまとめを策定												
事業候補地の検討・選定																									
・地理的条件等の現況調査													・事業候補地の選定 ・施設整備内容のとりまとめ												
													地域振興メニューの策定												
													・施策概要、事業候補地等を取りまとめた 地域振興メニューの策定												

2. 基本方針の策定について

(1) 地域振興のニーズの把握

地域振興メニューを検討するに当たっては、騒音地域住民の地域振興に対するニーズを把握することが重要であることから、成田空港騒音対策地域連絡協議会各地区部会の既存要望事項等を整理した上で、ヒアリングや意見交換を行うとともに、騒音地域にお住まいの方や区・自治会長の皆様などを対象としたアンケート調査を実施し、地域振興のニーズを把握しました。



調査名等	調査対象	実施期間
区・自治会長アンケート調査	騒対協各地区部会に加入する区・自治会長及び共同利用施設や防音集会所が設置されている区・自治会長 96 名 (回答数 68 件 回答率 70.8%)	R5. 10
全市民アンケート調査	無作為で抽出した 18 歳以上の市民 2,000 人 (回答数 610 件 回答率 30.5%)	R5. 10
インターネットアンケート調査	区・自治会長アンケート調査の対象とした地区の住民 (回答数 115 件)	R5. 12 ~ R6. 1
騒対協各地区部会ヒアリング調査	騒対協各地区部会 (中郷、久住、豊住、遠山、下総)	R5. 12 ~ R6. 1
基本方針の策定に係る意見交換	騒対協各地区部会 (中郷、久住、豊住、遠山、下総) ※大柴地域は区・自治会長と意見交換を実施。	R6. 2~R6. 3

(2) 地域振興メニューを検討するための基本方針の策定

地域振興は広い概念であることから、地域振興メニューを検討するために、ニーズ調査で把握した多様な意見を施策分野・項目別に分類した上で、アンケート調査や騒対協各地区部会へのヒアリング調査の結果及び騒対協各地区部会からの過去の要望の傾向から、優先して地域振興メニューを検討する施策項目を抽出し、地域振興メニューを検討するための基本方針を策定しました。

【基本方針で定めた各地域の施策項目】

施策分野	施策項目	中郷	久住	豊住	遠山	下総	大栄
住環境	防犯・交通安全対策	○	○	○			
	自然環境の保全対策	○					
	公園、空き地・空き家等の維持管理対策	◎	◎	◎	○	◎	◎
	居住環境整備対策		○				
都市基盤	買物環境、生活利便対策		◎	◎	○		○
	地域交通対策	○	◎	◎	◎	◎	◎
	道路整備、改良対策	○	○		◎	◎	◎
	供給処理施設対策				○	◎	○
保健・医療・福祉	子育て支援対策	○					
	高齢者・障がい者福祉対策	○					
	地域医療サービス対策	○		○			
	地域福祉活動対策	○					
教育文化	学校教育対策	○	○		○	○	
	生涯学習、文化芸術対策	◎					
	生涯スポーツ対策	○		○	○		
	国際教育、国際交流対策		○				
産業振興	農業振興対策	◎	○	○			
	空港関連等産業振興対策	○	○	◎	◎	○	
	観光振興対策				◎	○	

注： 検討の優先度の高い項目

【基本方針と施策項目に該当する主な要望及び意見】

分野	施策項目	○騒対協中郷部会の要望 ●アンケート調査での意見
住環境	防犯・交通安全対策	●防犯カメラ、防犯灯の設置
	自然環境の保全対策	○騒音地域の山林等の有効活用 ●山林の保全、植物園等の設置、サイクリングロードの設置
	公園、空き地・空き家等の維持管理対策	○移転跡地の有効活用 ●移転跡地の管理、不法投棄監視、空家等の再生と新規住民受入れ、耕作放棄地の有効活用、公園の整備
都市基盤	地域交通対策	●コミュニティバス、デマンド交通の充実
	道路整備、改良対策	●道路の整備、交通安全対策、雑草の刈取り
保健医療 福祉	子育て支援対策	○中郷ふるさと交流館の有効活用
	高齢者・障がい者福祉対策	●放課後の子どもの居場所、高齢者と子ども達の交流、赤荻保育園と交流館との一体化、地域福祉サービス充実
	地域医療サービス対策	
	地域福祉活動対策	
教育文化	学校教育対策	●文化体験施設の整備、伝統文化等を身近に感じる施設の整備、活性化に資するイベント開催、ふるさと交流館の機能強化
	生涯学習、文化芸術対策	
	生涯スポーツ対策	○中郷ふるさと交流館の有効活用 ●多目的広場の整備、お年寄りと若者の交流と健康促進の環境整備、トレーニングルームの設置 ○総合運動公園、モトクロス場の誘致
産業振興	農業振興対策	○農業の営農支援、農地の有効活用 ●農業経営支援、組合設立や企業の参入誘導、農業体験支援等
	空港関連等産業振興対策	●空港関連産業の誘致、工場の誘致

注： 検討の優先度の高い項目

【基本方針と施策項目に該当する主な要望及び意見】

分野	施策項目	○騒対協久住部会の要望 ●アンケート調査での意見
住環境	防犯・交通安全対策	○久住駅前への交番設置 ●防犯カメラの設置、駅前交番の設置、地域全体で防犯対策
	公園、空き地・空き家等の維持管理対策	○総合公園の整備 ○子どもが遊べる公園整備 ●キャンプ場、アウトドア施設、里山や公園整備、空家・空き地・移転跡地の管理・有効活用、子どもが自由に遊べる公園づくり
	居住環境整備対策	●共同利用施設・共生プラザの整備、便利な住環境の充実、ごみ収集マナー周知、住民組織の再検討、コミュニティセンター等の設置、騒音対策の充実
都市基盤	買物環境、生活利便対策	○久住駅前への複合施設の整備 ●複合商業施設の整備、スーパーマーケット誘致、生活利便施設の充実
	地域交通対策	○久住駅からのアクセス検討 ○公共交通の整理と利便性向上 ●コミュニティバスやデマンド交通の充実、久住駅の本数増・駅舎の改築、新交通システムの導入、タクシー利用券の導入、ライドシェアの導入
	道路整備、改良対策	○危険交差点への信号機設置 ●サイクリングロードの整備、団地内の通行規制、幹線道路の整備・維持管理、歩道の整備、信号機・横断歩道の設置、道路周辺の雑草刈取
保健医療福祉		
教育文化	学校教育対策	○子どもの見守りへのシルバー人材センター等の活用 ●塾の整備、学校ボランティアグループの組織化、教育特区の活用、中学部活動の選択肢拡大、学習室の整備、児童生徒の居場所づくり
	国際教育、国際交流対策	●英語教育の充実
産業振興	農業振興対策	●農業公園や農業公社の誘致、新規就農者・企業農業支援、遊休農地活用、営農支援、農業者への助成金、6次産業化への支援、農場関係機関の誘致、農業体験の増加
	空港関連等産業振興対策	●企業誘致、空港での就労が進む環境整備、工場・物流施設・航空産業の誘致、雇用確保

注： 検討の優先度の高い項目

【基本方針と施策項目に該当する主な要望及び意見】

分野	施策項目	○騒対協豊住部会の要望 ●区・自治会長アンケート調査での意見
住環境	防犯・交通安全対策	●防犯カメラの設置
	公園、空き地・空き家等の維持管理対策	○サイクリングロードの整備 ●サイクリングコース整備、空地の除草、伐採等適正管理、空き家の適正管理、身近な公園の整備、遊休地・不耕作地の有効活用
都市基盤	買物環境、生活利便対策	○買物対策
	地域交通対策	○地域公共交通対策 ●コミュニティバス、デマンド交通の利便性向上、タクシー券の配布、自動運転の導入
保健医療福祉	地域医療サービス対策	●公立の診療所の整備、福祉車両等の確保、救急体制充実、病院の誘致
教育文化	生涯スポーツ対策	○人を集める施設の有効活用 ●サイクリングロードに併設した休憩施設の整備、ウォーキングの開催、各種スポーツ用施設の整備、豊住ふれあい健康館の充実、運動会の開催
産業振興	農業振興対策	○営農支援 ●農作業体験の開催、遊休農地の有効活用、若手農業経営者支援
	空港関連等産業振興対策	○働き場所の確保 ●工業団地整備による大企業誘致、高齢者が働ける環境整備、商業施設誘致

注： 検討の優先度の高い項目

【基本方針と施策項目に該当する主な要望及び意見】

分野	施策項目	○騒対協遠山部会の要望 ●アンケート調査での意見
住環境	公園、空き地・空き家等の維持管理対策	●公園整備、空家・空き地の適正管理・有効活用、サイクリングロード整備、総合公園の施設整備、ボール遊びができる公園、公園遊具の充実
都市基盤	買物環境、生活利便対策	○買物利便性の確保 ●移動スーパー、宅配サービス充実、インターネットの使い方指導、若いママが集まるカフェ等整備、商業施設・飲食店誘致
	地域交通対策	○交通利便性の確保 ●コミュニティバス・デマンド充実、通院支援、駅周辺への駐車場整備、鉄道とバスの時間調整、新駅整備、タクシー券配布、空港アクセス充実
	道路整備、改良対策	○三里塚方面の交通渋滞対策 ○空港周辺の大型車誘導対策 ●三里塚交差点付近の渋滞対策、歩行者・自転車対策、子どもの安全対策、渋滞対策、樹木の伐採、道路の整備・維持管理、空港外周への散歩コース等整備
	供給処理施設対策	○上下水道の整備 ●上水道、都市ガス、下水道や情報通信施設の整備
保健医療福祉		
教育文化	学校教育対策	○遠山小学校の存続、有効活用 ●他地域の施設・サービスの活用、ものづくり体験、放課後の居場所づくり、教育費無償化、学校プールの開放、登下校の見守り充実、小学校サポート教員の充実、スクールバス充実
	生涯スポーツ対策	○スポーツ公園の整備 ●スポーツ施設、ジョギングロードの整備、スポーツクラブの育成、温水プールの整備、スポーツジムの充実、スポーツイベントの充実
産業振興	空港関連等産業振興対策	○公設地方卸売市場の有効活用 ●産業地確保の為に土地区画整理事業の推進、空港関連の企業、専門学校誘致、雇用の場の確保
	観光振興対策	○観光ルートを活用した地域活性化 ○花の回廊構想 ●体験型ツアーの企画、さくらの山等の活用、レジャー施設の誘致、観光イベントの開催

注： 検討の優先度の高い項目

【基本方針と施策項目に該当する主な要望及び意見】

分野	施策項目	○騒対協下総部会の要望 ●アンケート調査での意見
住環境	公園、空き地・空き家等の維持管理対策	○N A A用地の有効活用 ○空き地の有効活用 ○フレンドリーパーク等公園の有効活用 ○ドッグランの整備 ●子どもたちの遊ぶ場所の確保、未利用地・空き地等の適正管理・再生、フレンドリーパークの活用、所有者不明の区画の有効活用、ドッグランの整備、空き店舗の有効活用
都市基盤	地域交通対策	○地域公共交通の機能強化 ●コミュニティバス、デマンド交通の充実、ライドシェア導入、タクシーの割引利用、自動運転普及
	道路整備、改良対策	○生活道路への歩道整備 ●歩行空間の確保、草刈り等道路の適正管理、道路の整備・舗装化、未整備都市計画道路の見直し
	供給処理施設対策	○上下水道の整備方針の確定 ●上下水道の整備、ライフラインの自立循環システム
保健医療福祉		
教育文化	学校教育対策	○小学校跡地の有効活用 ●通学路の歩道の整備・信号設置、廃校の有効活用・校庭利用促進、スクールバスの増便、地域を広げた子ども会の開催
産業振興	空港関連等産業振興対策	●I T企業・物流系倉庫・空港関連産業の誘致、商業施設の誘致
	観光振興対策	●観光イベントの開催、レンタサイクルの充実とサイクリングロードの整備

注： 検討の優先度の高い項目

【基本方針と施策項目に該当する主な要望及び意見】

分野	施策項目	アンケート調査での意見
住環境	公園、空き地・空き家等の維持管理対策	空き家等の管理・所有者把握・有効活用、グリーンウォーターパークの再整備、ドッグランの整備、総合公園の整備、遊休農地の貸出
都市基盤	買物環境、生活利便対策	移動スーパーの増便、スーパーの誘致、買物代行サービス
	地域交通対策	コミュニティバス、デマンド交通の充実、スマホ等の使い方サポート、タクシー券の発券
	道路整備、改良対策	道路の整備、補修
	供給処理施設対策	上下水道の整備
保健医療福祉	—	
教育文化	—	
産業振興	—	

注： 検討の優先度の高い項目

3. 地域振興メニューの策定について

(1) 地域振興のこれまでの取り組み

これまで本市では、騒音地域の特性を生かしたコミュニティの醸成やにぎわいの創出のため、移転跡地や地域の豊かな自然などを活用して、航空機の離着陸を間近で体感できるさくらの山や地域住民の健康増進やスポーツ活動の促進を図るための北羽鳥多目的広場、地域の自然を活かした野毛平里山自然公園、十余三パークゴルフ場、久住パークゴルフ場などを整備するとともに、航空機騒音に関する情報の提供や健康維持促進を目的とした荒海共生プラザ、地域の交流の場として大室二区コミュニティ広場を整備してきました。



このほかにも、豊住中学校の跡地を活用した健康・生きがいづくりや地域コミュニティの場となる豊住ふれあい健康館や中郷小学校の跡地を活用した地域活動支援や地域コミュニティの場となる中郷ふるさと交流館、久住第二小学校の跡地を活用した民間事業者による簡易宿泊施設、滑河小学校の跡地を活用して、埋蔵文化財の収納設備と展示室や多目的室を備えた滑河文化財保存展示施設を整備しています。



さらに、東小学校の跡地を利用して、本市の重要施策であるスポーツツーリズムの推進に資する全国大会等の大規模大会の開催も可能な、成田エアポート東雲パークゴルフ場が令和7年度の供用開始を予定しており、隣接する複合施設は、クラブハウスとしての機能だけでなく、体育館や会議室、旧東小学校に関する展示室や防災倉庫を備え、地域コミュニティの醸成や災害時に住民が安心して避難できる施設となっています。



パークゴルフ場イメージ図



加えて、小泉地先において、成田富里いずみ清掃工場から発生する熱エネルギーを有効活用し、余熱を温水等として利用したプールやトレーニングジム、温泉を主体とした温浴施設などを施設整備のコンセプトとする余熱利用施設の整備に取り組んでおり、成田市公設地方卸売市場（成田市場）では、インバウンド需要の獲得と消費の拡大に結びつく日本の食文化を含めた様々な情報を発信する拠点であるとともに、新たな観光拠点としての役割も担う集客施設棟の整備に取り組んでいます。



新清掃工場関連付帯施設イメージ図



成田市場集客施設棟イメージ図

このような施設整備のほかに、防音工事済み住宅の維持管理費の一部を補助する民家防音家屋等維持管理費補助金や騒音地域に所在する土地、家屋の固定資産税、都市計画税相当額の一部を補助する航空機騒音地域補助金の交付、空港周辺対策交付金の一部を活用した騒音地域の道路関係、農業関係などの基盤整備を行っています。

さらに、騒音地域における補助金の特例を設け、合併浄化槽の設置など、計 12 事業に対して 50%のかさ上げ補助を実施することにより、騒音地域における環境整備の促進などを図っています。

(2) 地域振興メニューの策定の考え方

地域振興メニューを検討するに当たっては、騒音地域住民の地域振興に対するニーズを把握することが重要であることから、騒音地域の住民団体である成田空港騒音対策地域連絡協議会（騒対協）各地区部会の既存要望事項等を整理した上で、ヒアリングにより現時点のニーズを再確認するとともに、騒音地域住民及び市全域住民の地域振興に関するニーズを把握するためアンケート調査を実施しました。（参照：P2）

地域振興は広い概念であることから、同アンケート調査においても、多様な意見がみられました。そこで、これらの意見を施策分野・項目別に分類した上で、優先して地域振興メニューを検討する施策項目を基本方針として決めました。（参照：P3～P9）

基本方針として定めた、優先して地域振興メニューを検討する施策項目は、地域での生活環境の保全・向上に関する項目が多くあり、事業担当課において既に地域の課題として認識し、対応策の検討を開始しているものがあることから、その取組状況や課題等を事業担当課に確認するとともに、地域振興策のアイデア等について個別にヒアリングを実施したほか、交流人口の増加に主眼を置いた地域振興の事例の調査を実施しました。

これらの内容を踏まえて、基本方針で定めた検討の優先度の高い施策項目、主要計画・関連計画における位置づけ、基本方針に関連する事務事業の取組状況、地域資源や地域振興のこれまでの取組状況、他団体での地域活性化の事例等を勘案しながら、地域振興の目標の実現に向けて、その方向性のもとに、地域別の地域振興メニューと全地域に共通する地域振興メニューを策定するものです。



(3) 地域振興メニューの全体像

【地域別の地域振興メニュー】

1. 中郷地域

テーマ：「中郷ふるさと交流館を活用した地域コミュニティ機能等の充実」

内 容：ア. 新たな地域コミュニティ機能の形成

イ. 中郷ふるさと交流館を活用した地域への来訪促進

2. 久住地域

テーマ：「スポーツ関連施設等を活用した地域への来訪促進」

内 容：ア. スポーツ施設を中心とした施設整備

イ. スポーツ施設等の連携による地域への来訪促進

3. 豊住地域

テーマ：「豊住ふれあい健康館を活用したレクリエーション機能の充実」

内 容：ア. 豊住ふれあい健康館を起点とした地域への来訪促進

イ. 新たなレクリエーション機能の形成

4. 遠山地域

テーマ：「観光施設等を活用した地域への来訪促進」

内 容：ア. さくらの山の誘客機能の向上と観光案内機能の強化

イ. 成田エアポート東雲パークゴルフ場を活用した地域への来訪促進

5. 下総地域

テーマ：「歴史的資源等を活用した地域への来訪促進」

内 容：ア. 文化遺産の継承とその活用による地域への来訪促進

イ. 下総利根宝船公園と直売所しもふさの連携強化による賑わいの創出

6. 大栄地域

テーマ：「産業拠点機能の形成と地域への来訪促進」

内 容：ア. 物流機能をはじめとする産業拠点機能の形成

イ. 地域資源を活用した来訪促進

【地域共通の地域振興メニュー】

1. テーマ：「自転車を活用した地域への来訪促進」

内 容：ア. サイクリングコースの設定

イ. サイクリングの環境整備

2. テーマ：「地域文化の継承と地域コミュニティ機能の充実」

内 容：ア. 地域文化の継承

イ. 地域コミュニティ機能の充実

3. テーマ：「国・県・空港会社による地域振興策の誘導」

内 容：国・県・空港会社による公園整備事業等の誘導

4. 地域振興メニュー

4-1 目標と方向性

(1) 地域振興の目標

地域コミュニティ機能の維持・充実と地域への来訪促進により
豊かな自然と地域文化が息づく郷土の魅力を次世代につなぐ

(2) 地域振興の方向性

ア. 地域コミュニティ機能の維持・充実

騒音地域には、古くから集落が広がり、かつては1年を通して稲作や畑仕事、山仕事などの家族総出の作業や水源の管理、道普請、草刈りなど地域住民が協力して行う作業が多くありました。これらの地域では、獅子舞や神楽、おびしゃなどの住民どうしの連帯感を育む伝統行事が今も受け継がれており、郷土意識が希薄になっている昨今において、都市部とは異なる歴史の重みと地域文化が息づく貴重な地域です。

このことから、成田空港の開港から45年以上が経過し、騒音地域の住民の世代構成や生活環境が大きく変化している状況においても、地域での社会生活の礎となる地域コミュニティ機能※を維持・充実することを方向性としたものです。

※地域コミュニティが有する相互扶助、地域文化維持、行政補完、交流親睦等の機能

イ. 地域への来訪促進

近年の人口減少・高齢化により、騒音地域においても、地域を支える担い手不足が生じていますが、地域に住む人々だけでなく、地域に必ずしも居住していない地域外の人々に対しても、地域の担い手としての活躍を促すことも必要となっています。

騒音地域の多くは、市街化調整区域や農業振興地域に含まれ、田園や里山が広がる緑豊かな地域で、神社仏閣、歴史的建造物など、文化的・歴史的資源も所在します。さらに、空港を離着陸する航空機を展望する公園には、市内外から多くの方が訪れます。

このことから、これらの地域資源を活用した来訪の促進による「交流人口」の増加により、騒音地域への親しみや関わりの密度を高める機会を提供するとともに、地域外の方の地域行事への参画やNPO活動など、地域に多様な形で関わる「関係人口」の増加に繋げることで地域の活性化を目指すことに加えて、住民の方が地域の魅力を再認識できる機会となるよう方向性としたものです。

4-2 地域別の地域振興メニュー

4-2-1 中郷地域

(1) 地域振興メニューのテーマ

「中郷ふるさと交流館を活用した地域コミュニティ機能等の充実」

中郷ふるさと交流館は、地域住民の代々の学びの場として、また、地域活動を支える中心的な場として、地域のシンボリックな存在であった中郷小学校の跡地を利用して開設した施設です。

同施設には、中郷地区の歴史を学ぶことができる資料展示室や地区の社会福祉協議会が行う独居高齢者への配食サービス等を行うための調理室、中郷地区区長会や消防団等の地域団体が会議で使用する多目的室などが整備され、体育館やグラウンドでは、地区敬老会や高齢者のグラウンドゴルフ、自然の中で子ども連れの親子が自由な遊びを体験できるプレーパークの活動など、様々な世代の方が利用しています。

このように、平成31年4月のオープン以来、中郷小学校の頃と同様に地域の中心的な場としての役割を担っている中郷ふるさと交流館を活用し、地域コミュニティ機能の充実や地域への来訪促進により、地域の活性化を目指すことを地域振興メニューのテーマとしたものです。



(2) 地域振興メニューの内容

ア. 新たな地域コミュニティ機能の形成

地域社会における中核的施設としての役割を引き続き果たすため、中郷ふるさと交流館の設備・施設機能が保たれるよう適切に管理するとともに、子どもの居場所づくりや多世代交流といった近年の地域コミュニティに対するニーズを踏まえた新たな機能の形成を目指します。

イ. 中郷ふるさと交流館を活用した地域への来訪促進

地域への来訪を促進するため、現在未使用の2.3階部分の活用に関する課題を整理し、「交流人口」や「関係人口」の増加につながる新たな機能の形成を目指します。



(3) 基本方針及び各種計画での位置付け

地域振興メニューを検討するための基本方針において、中郷ふるさと交流館の有効活用が、検討の優先度の高い施策項目に該当する主な要望・意見に含まれています。

NARITAみらいプランにおいて、コミュニティ活動の活性化を掲げており、コミュニティ施設の利用促進として、中郷ふるさと交流館管理運営事業を位置付けています。また、都市計画マスタープランにおいて、レクリエーション拠点として位置付けており、既存設備・施設の良好な管理運営と施設の利用促進を方針として掲げています。

4-2-2 久住地域

(1) 地域振興メニューのテーマ

「スポーツ関連施設等を活用した地域への来訪促進」

少子高齢化や人口減少、グローバル化に伴い、スポーツに対する価値や期待は多様化し、スポーツの楽しみ方も変化しており、地域のコミュニケーションの希薄化が進む現代社会において、仲間づくりや地域コミュニティの創造をはじめ、高齢者や障がい者の社会参加を図るための手段としても、スポーツが担う役割は大きいと期待されています。

久住地域には、久住第2スポーツ広場を中心に半径2.5キロ※圏内に、スポーツ施設として、久住体育館、テニスコート、久住パークゴルフ場が、簡易宿泊施設として、久住第二小学校の跡地を活用した「Ready to Flight! NARITA」が所在します。

また、同圏内には、成田富里いずみ清掃工場の付帯施設として、プール・温浴施設、ジム等を備えた余熱利用施設の整備が進められているほか、隣接する遠山地域の十余三パークゴルフ場、令和7年度に供用開始予定の成田エアポート東雲パークゴルフ場が所在します。さらに、当該地は、B滑走路が1,000m北伸することから将来的にA滑走路におけるさくらの山のようなダイナミックな航空機の離着陸シーンを見ることができる展望ポイントとしてのポテンシャルを持っています。

このことから、スポーツ施設や宿泊施設、余熱利用施設（整備中）などが近接する立地環境を活かしたスポーツの拠点として、市内外から騒音地域への来訪を促進することで、地域の活性化を目指すことを地域振興メニューのテーマとしたものです。



※自転車です約10分の距離の目安として2.5キロとしたもの。

(2) 地域振興メニューの内容

ア. スポーツ施設を中心とした施設整備

久住第2スポーツ広場を中心に半径約2.5キロには、スポーツ施設や宿泊施設、余熱利用施設（整備中）等が近接していることや当該地の航空機の展望ポイントとしてのポテンシャルを活かして、市内外から騒音地域への来訪を促進するため、スポーツ施設を中心とした施設の整備を目指します。

イ. スポーツ施設等の連携による地域への来訪促進

複数のスポーツ施設と宿泊施設や余熱利用施設（整備中）が近接して立地する強みを活かしたイベントの実施などにより、地域への来訪促進を目指します。



(3) 基本方針及び各種計画での位置付け

地域振興メニューを検討するための基本方針において、総合公園の整備が、検討の優先度の高い施策項目に該当する主な要望・意見に含まれています。

NARITAみらいプランにおいて、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境をつくることを掲げており、施策の方向としてスポーツを通じた交流活動の促進、スポーツ施設の充実を位置付けています。

4-2-3 豊住地域

(1) 地域振興メニューのテーマ

「豊住ふれあい健康館を活用したレクリエーション機能の充実」

豊住ふれあい健康館は、豊住中学校跡地を利活用した施設として、平成 29 年 4 月にオープンしました。令和 2 年 4 月 1 日からは、指定管理者制度を導入し、地元で組織された「豊住ふれあい健康館等管理運営委員会」により管理運営がされています。

同施設は、トレーニング室や多目的室、陶芸を行う創作室などを備え、市民の健康づくりや生きがいづくりを支援することで地域コミュニティの醸成に資する場としても活用されており、令和 5 年度は、約 24,000 名の方にご利用いただいています。

また、豊住地域は、利根川・根木名川沿いに緑豊かな田園風景が広がり、同地域内に所在する成田豊住熊野神社は、平安時代の西暦 923 年に、紀州熊野大社より御分霊をいただき創建されたと伝えられる印旛郡市きつての古社で、その景観は、なりた景観資産に登録されています。このほかにも、緑地全体に中世の城址（長沼城址）の土塁や空堀等が残された長沼市民の森があり、明治時代の国有地払い下げにまつわる福澤諭吉の記念碑にも近接しています。

このことから、これらの地域資源を活用し、豊住ふれあい健康館を起点とした回遊性の向上による地域への来訪促進や住民の健康づくりや生きがいづくりといった従来の機能に加えて、地域住民の憩いの場や子どもの居場所づくりといった新たな機能の導入により、豊住ふれあい健康館のレクリエーションの拠点施設としての機能の更なる充実による地域の活性化を目指すことを地域振興メニューのテーマとしたものです。



(2) 地域振興メニューの内容

ア. 豊住ふれあい健康館を起点とした地域への来訪促進

豊住ふれあい健康館を中心に半径約 2.5 キロ、自転車で約 10 分圏内には、熊野神社や長沼市民の森、根木名川沿いに広がる田園地帯などの緑豊かな景観が広がるほか、昔ながらの商店などもあります。近年、TV 番組や書籍では、「散歩」や「街歩き」をテーマとするものが増えていますが、その背景には、ガイドブックに掲載された観光地を巡る画一的なものではなく、偶然の出会いや発見のある時間の過ごし方に対する需要の増加があります。

また、自転車の利用について、自転車活用推進法が平成 29 年に施行され、この理念に基づく第 2 次自転車活用計画が令和 3 年に閣議決定されるなど、自転車の環境や健康、観光といった分野に対するポテンシャルが見直されています。

このことから、豊住ふれあい健康館を起点として地域内を散歩するようにのんびりと回遊するサイクリングコースに、地域の見所を反映させた観光・サイクリングマップの作成やサイクリングのモニターツアーの実施により、地域への来訪促進を目指します。



イ. 新たなレクリエーション機能の形成

近年、不登校や引きこもりといった、家庭や学校に居場所のない子どもたちの増加が社会問題となっており、こども家庭庁が、こどもの居場所づくりに関する指針を示すなど、多様な子どもの居場所づくりが求められています。

豊住地域は、漫画家 日暮えむさんの出身地であり、ひぐらし日記（出版社：KADOKAWA）は、旧豊住中学校（現豊住ふれあい健康館）など豊住地域を舞台としています。漫画は、世代や性別にかかわらず、子どもから高齢者まで多くの方が楽しめるコンテンツであることから、新たなレクリエーション機能として、漫画のみを所蔵する貸出を行わない滞在型の図書室機能の形成を目指します。



（3）基本方針及び各種計画での位置付け

地域振興メニューを検討するための基本方針において、サイクリングコースの整備が、検討の優先度の高い施策項目に該当する主な要望・意見に含まれています。

都市計画マスタープランにおいて、豊住ふれあい健康館を、レクリエーション拠点として位置付けており、既存設備・施設の良好な管理運営と施設の利用促進を方針として掲げています。

4-2-4 遠山地域

(1) 地域振興メニューのテーマ

「観光施設等を活用した地域への来訪促進」

遠山地域に所在する三里塚記念公園は、桜と馬の牧場として多くの人に親しまれてきた宮内庁下総御料牧場が、成田空港の建設に伴い移転し、その跡地に作られたものです。園内には我が国の畜産振興の輝かしい実績と幾多の記録を残すために建てられた御料牧場記念館があり、皇室ゆかりの貴賓館及び防空壕は、新たに国の登録有形文化財に登録されるなど、三里塚の歴史、文化を物語る上で貴重な資産となっています。

また、空港と周辺地域の自然環境を活用した桜と空による交流の場及び観光振興と地域経済の発展に繋げることを目的として設置されたさくらの山には、約 500 本の桜が植えられており、離着陸する飛行機を桜とともに眺めることができ、観光物産館 空の駅さくら館も併設されていることから、桜の時期はもちろん、年間を通して多くの家族連れや写真愛好家の方々が集まる観光スポットとなっています。

令和 4 年 1 月に開場した成田市場においては、インバウンド需要の獲得と消費の拡大に結びつく日本の食文化を含めた様々な情報の発信や新たな観光拠点としての役割も担う集客施設棟の整備が進められており、成田空港を活用して国内外の名産品や旬の食材の販売を行う世界の道の駅の整備、新鮮な食材を使用した料理や機内食などを提供するレストラン、農業体験施設、見学も可能な加工場などの併設、場内事業者と連携したイベントの開催など、その実現に向けた取り組みを進めています。

さらに、東小学校跡地においては、公益社団法人日本パークゴルフ協会が定める公認コース認定規定等に基づき設計され、全国大会等の大規模大会の開催も可能な、成田エアポート東雲パークゴルフ場が令和 7 年度の供用開始を予定しています。

このことから、これらの施設を活用し、市内外から騒音地域への来訪を促進することで、地域の活性化を目指すことを地域振興メニューのテーマとしたものです。



成田市場集客施設棟イメージ図



パークゴルフ場イメージ図

(2) 地域振興メニューの内容

ア. さくらの山の誘客機能の向上と観光案内機能の強化

さくらの山は、航空機の撮影スポットとしての知名度も高く、観光物産館 空の駅さくら館も併設され既に市内外から多くの方々が訪れていますが、年間を通じて誘客を行えるよう、桜以外の季節の花木の植栽などによるさくらの山の誘客機能の向上を目指します。

また、貴賓館と防空壕が国の登録有形文化財に登録された三里塚記念公園やにぎわいの創出拠点となる集客施設棟の整備を行っている成田市場への回遊を促すため、デジタルサイネージ等の設置によるさくらの山の観光案内機能の強化を目指します。

イ. 成田エアポート東雲パークゴルフ場を活用した地域への来訪促進

空港周辺の宿泊施設から近く、本市が重要施策として掲げるスポーツツーリズム（スポーツを通じた誘客や観光振興）の推進に適した立地環境にある成田エアポート東雲パークゴルフ場を活用し、全国大会等の大規模大会の誘致に取り組むとともに、さくらの山や三里塚記念公園、成田市場集客施設棟などの観光資源との連携による地域への来訪促進を目指します。



(3) 基本方針及び各種計画での位置付け

地域振興メニューを検討するための基本方針において、観光ルートを活用した地域活性化が、検討の優先度の高い施策項目に該当する主な要望・意見に含まれています。

都市計画マスタープランにおいて、さくらの山及び三里塚記念公園を、レクリエーション拠点として位置付けており、さくらの山は、空の駅さくら館などの施設利用の促進に努めるとともに、三里塚記念公園や三里塚さくらの丘等への回遊を促進するため、観光情報等の提供を推進することを掲げています。

スポーツツーリズム推進戦略において、地域資源の活用によるコンテンツづくりを掲げています。

4-2-5 下総地域

(1) 地域振興メニューのテーマ

「歴史的資源等を活用した地域への来訪促進」

下総地域に所在する滑河山龍正院は、滑河観音の名称で親しまれており、室町時代に再建された仁王門は国の重要文化財に指定されています。



また、小御門神社は、交通安全や航空安全・病氣平癒や事業回復に御利益があるとして信仰され、境内は「小御門神社の森」と呼ばれており、県の天然記念物に指定されています。



さらに、フレンドリーパークの愛称で親しまれている下総運動公園には、野球場・テニスコート・運動広場・サイクルロード・キャンプ場などが整備されているほか、平成 18 年 3 月に新たに成田市の資料館として開館した下総歴史民俗資料館が所在します。また、滑河小学校の跡地には、成田市の歴史を知ることのできる貴重な埋蔵文化

財を収納しつつ、展示室や多目的室を備えた滑河文化財保存展示施設があります。

加えて、平成 23 年に建設された下総利根宝船公園には、芝生広場や利根川をイメージした園路が配置されているほか、下総地区のしもふさ七福神巡りにちなみ、七福神をモチーフとしたモニュメントや宝船をイメージした展望施設があります。



また、地域の意欲ある農業者が主体となって直売所を開設・運営を行えるよう創設した成田市農産物等直売施設整備費補助金を活用し、平成 25 年 12 月にオープンした直売所しもふさが隣接し、野菜や畜産加工品の販売のほか、地元下総高校の皆さんが育てた「しもっ子そば」がそば処で提供されるなど、地元農業者の 6 次産業化による販路拡大や新鮮で安全・安心な農産物の提供、生産者と消費者との交流の場となっています。

このことから、これらの歴史的資源や施設を活用し、市内外から騒音地域への来訪を促進することで、地域の活性化を目指すことを地域振興メニューのテーマとしたものです。

(2) 地域振興メニューの内容

ア. 文化遺産の継承とその活用による地域への来訪促進

下総歴史民俗資料館において、地域の文化遺産に関する企画展を開催するとともに、国の重要文化財、県・市指定文化財を所有する龍正院（滑河観音）に隣接し、文化財を保存・展示している滑河文化財保存展示施設において、文化財を身近に感じる体験教室を定期的を実施することにより、文化遺産の後世への継承や文化遺産の活用による地域への来訪促進を目指します。

イ. 下総利根宝船公園と直売所しもふさの連携強化による賑わいの創出

下総利根宝船公園にはブランコのほか、展望台には滑り台が設置され、6月上旬から9月上旬までは水遊びが可能な噴水池があるなど、小さな子どもも楽しめる設備があることから、これらの設備に加えて、大型複合遊具やローラー滑り台など、新たな遊具の設置により同公園の魅力の向上を目指します。



また、同公園を中心とした半径 2.5 キロ圏内に、滑河観音、小御門神社、下総歴史民俗資料館、滑河文化財保存展示施設などの歴史的資源が所在しており、近接する滑河駅を起点に「しもふさ七福神巡り」のモデルコースも整備されていることから、直売所しもふさに、パンフレットやデジタルサイネージ等の設置による観光案内機能の

充実を目指すほか、同公園で農業を身近に感じるイベント等を開催するなど、下総利根宝船公園と直売所しもふさの連携による賑わいの創出を目指します。

(3) 基本方針及び各種計画での位置付け

地域振興メニューを検討するための基本方針において、フレンドリーパーク等の公園の有効活用が、検討の優先度の高い施策項目に該当する主な要望・意見に含まれています。

都市計画マスタープランにおいて、滑河観音及び小御門神社を、歴史観光拠点として位置付けており、観光やレクリエーション活動の場としての活用に努めることに加え、小御門神社は自然林に近い樹木の保全に努めるとしています。

成田市文化芸術推進基本計画において、文化芸術の保存・継承、文化芸術による都市間交流の推進・賑わいの創出を施策の柱として掲げています。

4-2-6 大栄地域

(1) 地域振興メニューのテーマ

「産業拠点機能の形成と地域への来訪促進」

大栄地域の南部は、国道 51 号や東関東道をはじめとする充実した広域交通網を擁することに加え、圏央道の延伸や圏央成田インターチェンジの設置が進められているなど、空港との近接性を生かした産業拠点機能の誘導が期待されています。また、令和 4 年 1 月に開場した成田市場においては、インバウンド需要の獲得と消費の拡大に結びつく日本の食文化を含めた様々な情報の発信や新たな観光拠点としての役割も担う集客施設棟の整備も進められています。

こうした地域のポテンシャルを踏まえ、本市のまちづくりの方向性を定めた都市計画マスタープランでは、大栄地域の活性化に向け、谷津や里山、農地などの良好な自然環境との調和を図り、空港や広域交通網を生かした適切な産業集積を進めるとしており、特に圏央成田インターチェンジ周辺では、「新しい成田空港」構想で掲げられる新貨物地区に隣接することもあり、航空貨物を中心とした物流の活性化を見込む民間企業の開発需要が高まっております。



(出典：国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所 NEXCO 東日本【首都圏中央連絡自動車道】大栄～横芝区間マップより抜粋)

他方で、同地域には、優良農地が広がっており、水はけの良い火山灰を含んだ土壌は、柔らかく深く、さつまいもをはじめとした様々な農作物の栽培が盛んで、空港周辺 9 市町の農産品や伝統料理を中心としたメニューを提供する古民家風レストランや野菜などの苗植えから収穫までの一連の農業体験ができる観光農園などもあります。

このことから、「新しい成田空港」構想を踏まえた、物流機能をはじめとする産業拠点機能の形成と農作物の栽培が盛んな地域特性や成田市場、グリーンウォーターパーク等の地域資源を活かした来訪促進による地域の活性化を目指すことを地域振興メニューのテーマとしたものです。

(2) 地域振興メニューの内容

ア. 物流機能をはじめとする産業拠点機能の形成※

物流機能をはじめとする産業用地の確保に向け、農地転用許可等の手続きに関する配慮等、地域未来投資促進法による規制の特例措置を活用して事業を進めることのできる場所を調査するほか、企業誘致制度の充実を図って企業が進出しやすい環境づくりに取り組むことにより、「新しい成田空港」構想を踏まえた、物流機能をはじめとする産業拠点機能の形成を目指します。

※P35「(3) 産業振興」より抜粋

イ. 地域資源を活用した来訪促進

成田市場の集客施設棟を整備し、地元農産物の魅力発信や販路拡大にも繋がる新たな販わいの創出や地域資源（成田市場、古民家風レストラン、体験農園、グリーンウォーターパーク等）の連携により大栄地域への来訪を促進するとともに、民間事業者による学校跡地の利活用により地域の活性化を図ります。

また、グリーンウォーターパークについて、子どもや高齢者など誰もが楽しめる新たな公園機能の形成を目指します。



(3) 基本方針及び各種計画での位置付け

地域振興メニューを検討するための基本方針において、グリーンウォーターパークの再整備が、検討の優先度の高い施策項目に該当する主な要望・意見に含まれています。

都市計画マスタープランにおいて、圏央成田インターチェンジ周辺は、地域の高いポテンシャルを生かし、工業、物流機能等の計画的な誘導と適切な土地利用の推進を位置付けています。

4-3 地域共通の地域振興メニュー

4-3-1 地域共通メニュー

(1) 地域振興メニューのテーマ

「自転車を活用した地域への来訪促進」

自転車は通勤や通学の足としてはもちろんのこと、サイクルレジャーやスポーツコースとしても人気で、子どもから大人まで多くの方が親しむことのできる乗り物です。政府においては、令和3年に第2次自転車活用推進計画を閣議決定し、「自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成」、「サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現」、「サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現」、「自転車事故のない安全で安心な社会の実現」の4つの目標を掲げるなど、住民の健康の増進や観光振興、交通混雑の緩和、環境への負荷軽減に対する自転車の価値が改めて評価されています。

サイクリングには、サイクリングコースなどを軽快に走行することを目的とするものや散歩するようにのんびりと自転車で走行するポタリングと呼ばれるものがあるなど、スポーツとしての側面のほか、地域資源を活用した回遊性の向上による来訪の促進など、観光としての側面からの施策展開も考えられます。

このことから、騒音地域に所在する懐かしい里山の風景や歴史的資源、観光施設やスポーツ施設などの地域資源と自転車を活用して地域への来訪を促進することで、地域の活性化を目指すことを地域振興メニューのテーマとしたものです。



(2) 地域振興メニューの内容

ア. サイクリングコースの設定

騒音地域に所在する豊かな自然や歴史的資源、観光施設、スポーツ施設などの地域資源を活用して、地域内を回遊するサイクリングコースや空港・市街地等から騒音地域を繋ぐサイクリングコースに、地域の見所を反映させた観光・サイクリングマップの作成やサイクリングのモニターツアーの実施により、自転車を活用した地域への来訪促進を目指します。

イ. サイクリングの環境整備

騒音地域全域で、自転車を活用した地域への来訪促進による地域活性化を目指すため、レンタサイクルやサイクリスト向けのサイクルステーション機能（メンテナンス、休憩スペース等）を形成し、自転車を活用した地域への来訪促進を目指します。

(3) 基本方針及び各種計画での位置付け

地域振興メニューを検討するための基本方針の前提となるアンケート調査や意見交換会において、多くの地域（久住、豊住、遠山、下総）からサイクリングに関する意見がありました。

スポーツツーリズム推進戦略では、「戦略4：回遊促進プロジェクト」において、自転車やランニング等の回遊について、近隣市町との連携を図り、近隣市町それぞれの魅力ある場所をつなぐことで、回遊の促進及びリピーターの創出を図るとしています。



4-3-2 地域共通メニュー

(1) 地域振興メニューのテーマ

「地域文化の継承と地域コミュニティ機能の充実」

騒音地域では、獅子舞や神楽、おびしゃなどの伝統行事が今も受け継がれており、遠山地域の取香の三番叟は、県の無形民俗文化財に、豊住地域の北羽鳥香取神社獅子舞と下総地域の西大須賀の神楽は、市の無形民俗文化財に指定されています。

地域の豊かな自然や言葉、昔から親しまれている祭りや行事、歴史的な建造物や景観、地域に根差した文化芸術活動等は、それ自体が独自の価値を持つだけでなく、住民の地域への誇りや愛着を深め、住民共通の拠り所にもなるものであり、近年の人口減少・高齢化により地域を支える担い手が減少するなかで、このような地域の文化を次世代に引き継ぐ必要があります。



地域振興のニーズを把握するためのアンケート調査においては、伝統行事や祭りの復活などのご意見に加えて、地域での運動会の開催や高齢者と子ども達との交流、買物弱者に対する支援、ごみ収集マナーの周知、防災や防犯に関するご意見といった地域コミュニティや日常生活に関するご意見・ご要望も多く頂きました。

地域社会においては、PTA や子ども会、敬老会等、様々な地域コミュニティが存在しますが、その中でも、地縁による団体である自治会・町内会等は、住民相互の連絡、区域の環境美化、集会施設の維持管理等、良好な地域社会の維持及び形成に資する地域的な共同活動を行っており、防犯や防災活動時の自助・共助の場面においても、その重要性が高まっています。

このことから、地域文化の継承と地域での社会生活の礎となる地域コミュニティ機能の充実を目指すことを地域振興メニューのテーマとしたものです。



(2) 地域振興メニューの内容

ア. 地域文化の継承

地域の伝統文化を次世代に継承するため、子どもや若者が郷土芸能などの伝統文化にふれる機会の充実を目指します。また、地域で守られてきた文化資源や歴史的資源、地域の豊かな自然などを地域の魅力として発信することで、騒音地域への親しみや関わりの密度を高める機会を提供するとともに、地域外の方の地域行事への参画やNPO活動など、地域に多様な形で関わる「関係人口」の増加に繋げることで地域の活性化を目指すことに加えて、住民の方々が地域の魅力を再認識できる機会となることを目指します。

イ. 地域コミュニティ機能の充実

本市では、地域住民の行うゴミ拾いや草刈りなどの「環境美化活動」、地域のお祭り・盆踊りやスポーツ大会などの「コミュニティ活動事業」、集会施設などの設備・備品の購入や修繕などの「設備・備品整備事業」に補助金を交付するコミュニティ事業補助金の制度を設けていることから、子どもの居場所づくりや多世代交流といった近年の地域コミュニティ機能に関するニーズに、当該補助金を活用するモデルケースなどを検討し、地域コミュニティ機能の充実を目指します。

(3) 基本方針及び各種計画での位置付け

地域振興メニューを検討するための基本方針の前提となるアンケート調査や意見交換会において、生活環境の保全に関するご意見やご要望が多くありました。

NARITAみらいプランにおいて、コミュニティ活動の活性化を掲げており、地域におけるコミュニティ活動を支援することを位置付けています。

文化芸術推進基本計画において、文化芸術の保存・継承を施策の柱として掲げています。

4-3-3 地域共通メニュー

(1) 地域振興メニューのテーマ

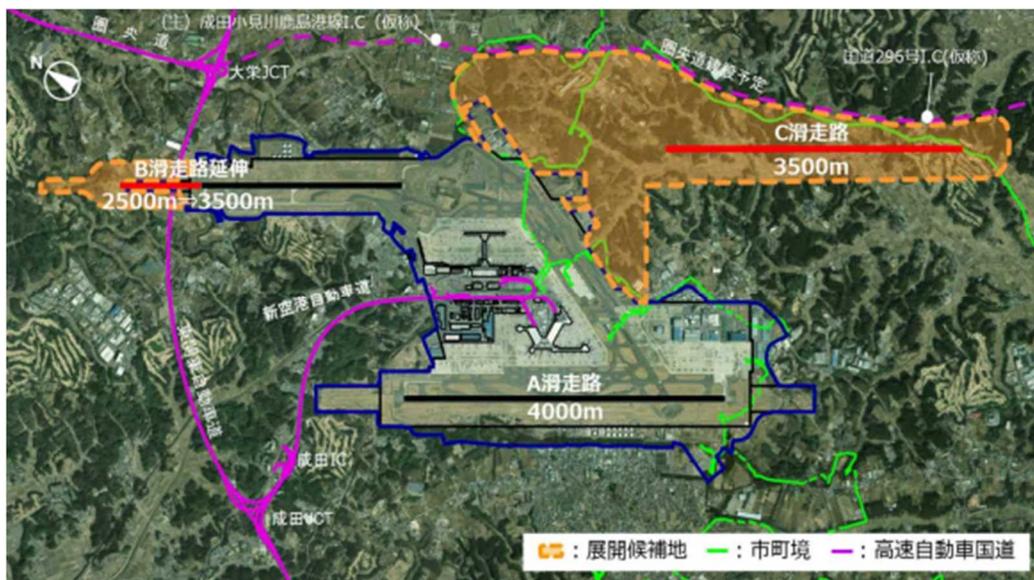
「国・県・空港会社による地域振興策の誘導」

成田空港は、増大する航空需要へ対応するための国策として、紆余曲折を経て、昭和53年に国際拠点空港として開港しました。そして現在、成田空港の更なる機能強化及び「新しい成田空港」構想を実現するべく、第2の開港といっても過言ではない大きな変革の時期を迎えています。

令和6年7月に公表された「新しい成田空港」構想とりまとめ2.0では、空港と地域の共生・共栄のあり方として、空港会社は、これまで以上に積極的に地域振興に努めるべきであるとしています。

また、四者協議会が令和6年9月に改訂した成田空港周辺の地域づくりに関する実施プランでは、四者が目指すべき姿として、空港づくりは地域づくりの理念のもと、地域の発展と空港の発展とが好循環する地域づくりの早期実現に、国、県、9市町、空港会社とが連携して最大限努力して取り組んでいくことが必要であるとしています。

このように、国策として建設された成田空港における地域振興については、国、千葉県、成田国際空港株式会社の積極的な関与が必要不可欠であることから、本市が実施する地域振興策に加えて、これらの三者による振興策を誘導し、地域の活性化を目指すことを地域振興メニューのテーマとしたものです。



(出典：第23回成田空港に関する四者協議会 資料「国土交通省 成田空港の機能強化について」より抜粋)

(2) 地域振興メニューの内容

国・県・空港会社による公園整備事業等の誘導

空港周辺の移転跡地等において、住民にとって憩いの場となる自然公園の整備等を誘導し、地域の活性化を目指します。

④ 地域と空港との相互連携による一体的・持続的发展

～海外空港事例を踏まえた今後の展開のポイント～

海外空港事例調査から得た以下のポイントを踏まえ、エアポートシティの実現に向けて、千葉県とNAAが中心的役割を担う体制が一つの方法。その体制のもと関係する自治体と連携し検討していく姿が考えられる。

【1】 グローバルな視点とローカルな視点でのコンセプト策定の必要性

産業・企業、研究開発拠点、人材等呼び込むためには、成田空港が日本、ひいてはアジアの物流拠点であることや、東アジア地域の地政学的動向等を踏まえつつ【グローバルな視点】、空港周辺の環境や産業、後背地である首都圏へのアクセス性等を最大限活かした【ローカルな視点】コンセプト策定が必要

【2】 『行政と空港が一体となった推進体制』の必要性

空港周辺の開発は、行政と空港会社が一体となって開発が進められるケースが多く、計画策定から開発までを担う推進体制が必要

【3】 無秩序な地域の開発をさけるための『ゾーニング』の必要性

エアポートシティを開発するにあたり、無秩序な開発を防ぎ、良好な環境の確保、開発効果の最大化を図るため開発地区についてゾーニングを設定し、それぞれの特徴にあった機能配置が必要

【4】 人材確保のための『生活環境』、『教育環境』、『就労環境』整備の必要性

グローバルな産業誘致・企業誘致に向けては、そこで働く人と家族を含めた、快適で住みやすい生活環境、安心して子供を預けられる教育環境、働く本人の就労環境を整備することが不可欠

【5】 周辺環境に溶け込み、自然と調和したエアポートシティ形成を目指すべき

成田空港周辺の特性を活かした、住民にとって憩いの場となる自然公園の整備や田園・里山の風景と調和したネイチャーポジティブな視点でのエアポートシティ形成を目指すべき。また、企業等による拠点開設を誘引するには、サステナビリティやローカルティといった企業のブランドイメージに沿うことも重要



(出典：NAA 「新しい成田空港」構想とりまとめ 2.0 概要より抜粋)

(3) 基本方針及び各種計画での位置付け

地域振興メニューを検討するための基本方針の前提となるアンケート調査や意見交換会において、移転跡地等の有効活用に関するご意見やご要望が多くありました。

5. 基本方針に関連する主要施策の取り組み

地域振興は広い概念であることから、そのニーズを把握するためのアンケート調査では多くのご意見・ご要望を頂きました。これらを基にして定めた地域振興メニューを検討するための施策項目（基本方針）のうち、騒音地域を含む全市的な主要施策として事業が進行している地域公共交通対策、買物弱者対策、農業振興、産業振興及び空港周辺まちづくりについて、その取り組み内容をお示しします。

(1) 地域公共交通対策・買物弱者対策

本市では、立地適正化計画におけるコンパクト・プラス・ネットワークの考えの下、利便性・安全性の高い地域への居住誘導や都市機能の集約化を進める拠点となる地域と、その周辺地域を公共交通にてネットワーク化することにより、利便性の高い市街地とゆとりある郊外地域が共存し、多様な居住スタイルを選択できる生涯を完結できるまちの実現を目指しています。

騒音地域や郊外地域においては、市街地と比べて交通利便性が低いことから、民間路線バスが廃止された地域などの交通利便性の確保を目的に運行するコミュニティバスや高齢者の外出支援を目的として運行するオンデマンド交通の継続に努めていますが、市内各地に点在する交通空白地域においては、地域公共交通計画において施策の一つとして掲げる、交通空白地域解消のためのデマンド交通の導入も検討に加えるなどして、関係機関等との協議を進めてまいります。

これらの持続可能な地域公共交通の構築に向けた取り組みを、交通事業者や庁内関係部署との横断的な連携を深めながら一層進めるため、令和6年度より都市計画課に新設された交通政策室を中心として、現在の運行体制のみに捉われない視点で、それぞれの地域の実情に応じた官民による移動サービスが効率的に補完し合う公共交通体系の構築に向けて取り組んでいきます。

また、交通利便性に関連する買物弱者対策について、本市では、日常の買い物が困難な方への支援策として、「買い物支援と地域の見守り活動推進に関する協定」を事業者と締結し、軽トラックにより食料品や日用品を巡回販売する移動スーパーを運行しており、騒音地域や郊外地域などの移動販売につきましては、安定的な集客や適切な販売場所の確保といった課題に留意しつつ、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を中心として、地域の要望や住民ニーズを的確に把握し、販売事業者との連携を強化しながら、取り組みを充実させていきます。



(2) 農業振興

成田市の農業は、温暖な気候と首都圏の消費地に近接する立地に恵まれ、基幹的な産業となっていますが、高齢化や人口減少による担い手不足、農業資材・肥料等の高騰など、農業経営を巡る環境は厳しさを増しています。

騒音地域においては、移転による離農などの影響も加わり、農地の管理や農村環境の保全が、他の地域に比較して難しくなっています。

これまで、農道整備・排水路整備事業及び土地改良事業促進事業により、農道・排水路の整備及び修繕を実施し、農業基盤を整えるとともに、土地改良区が実施する事業などに係る経費についても助成し、土地改良区の健全な運営と事業の推進を図ってきました。

また、農地・水保全管理事業では、地域住民で構成している活動組織が実施する農地管理などの共同活動に対し、多面的機能支払交付金による支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進しています。

今後もこれらの取組を適切に推進するとともに、地域農業の将来の在り方や農地の効率的かつ総合的な利用を目的とした地域計画を策定し、担い手を中心に農地の集積・集約化を進めていきます。

(3) 産業振興

成田空港の更なる機能強化に伴う空港周辺地域への物流企業などの進出意欲の高まりに対し、本市では、地域未来投資促進法に基づく基本計画の見直しを行い、今後、進出が期待される物流関連施設や医療関連産業をはじめとする様々な企業の進出を促進すべく、「第2期千葉県成田市基本計画」を策定し、令和6年4月に国の同意を受けました。また、新たな企業の進出及び既存企業の再投資などの環境整備を図るため、国道295号をはじめとする幹線道路沿道や高速道路インターチェンジ周辺などの空港周辺地域における開発行為の立地基準の追加などによる物流機能等の受皿確保に向けて取り組んでいます。

特に、圏央成田インターチェンジ周辺では、「新しい成田空港」構想で掲げられている新貨物地区に隣接することもあり、航空貨物を中心とした物流の活性化を見込む民間企業の開発需要が高まっております。

このことから、産業用地の確保に向け、農地転用許可等の手続きに関する配慮等、地域未来投資促進法による規制の特例措置を活用して事業を進めることのできる場所を調査するほか、企業誘致制度の充実を図って企業が進出しやすい環境づくりに取り組むことにより、「新しい成田空港」構想を踏まえた、物流機能をはじめとする産業拠点機能の形成を目指していきます。

(4) 空港周辺まちづくり

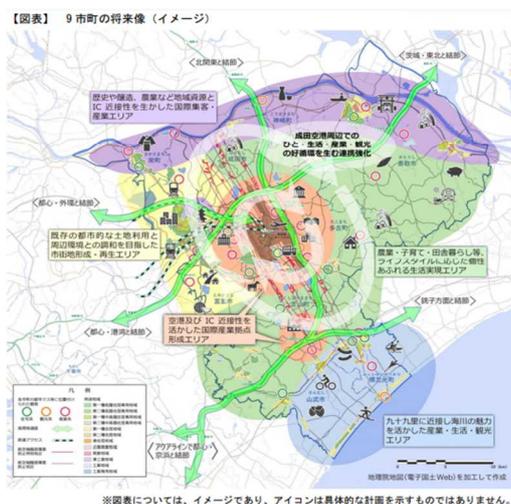
成田空港の更なる機能強化による空港周辺地域への波及効果を最大限に受け止め、将来に向けて、本市が持続的に発展していくためには、機能強化により期待される新たな開発需要や人口増加に対して、秩序ある快適で良好な市街地の形成が求められています。

そのような中、中心市街地に隣接した不動ヶ岡地区において、新たな居住環境の整備と商業的土地利用による賑わいを図ることを目的として、土地区画整理事業が進められており、東和田南部地区においても、新たに設置を構想しているインターチェンジを活用した物流機能の強化や空港周辺における産業促進に向けた都市基盤を整備するため、区画整理事業の事業化への検討が進められています。

さらに、吉倉・久米野地区においても、成田空港の更なる機能強化や国際医療福祉大学成田病院と連携した医療関連産業の集積などに伴う新たな開発需要・人口増加に適切に対応するため、交通結節点となる構想駅の設置を目指すとともに、区画整理事業の事業化への検討が進められています。

このようなまちづくりにも関連する、成田空港の更なる機能強化を見据えた道路整備については、将来の交通需要の増加を適切に受け止め、空港周辺地域の発展と利便性の向上を図るため、骨格となる幹線道路の整備を進めるとともに、広域道路ネットワークとの連携を強化する高速道路へのインターチェンジの設置に向けた取り組みを積極的に行っていきます。あわせて、地域の生活に密着した生活道路についても、通学路の安全性向上など、地域の課題に応じた必要な改善に努めていきます。

また、広域的な空港周辺のまちづくりの視点として、成田空港に関する四者協議会は、成田空港周辺の地域づくりに関する実施プランを令和6年9月に改訂し、空港周辺地域の将来像として「空港を核として、都市と田園が調和し、暮らしや産業の拠点として選ばれるエアポートシティ」を掲げました。

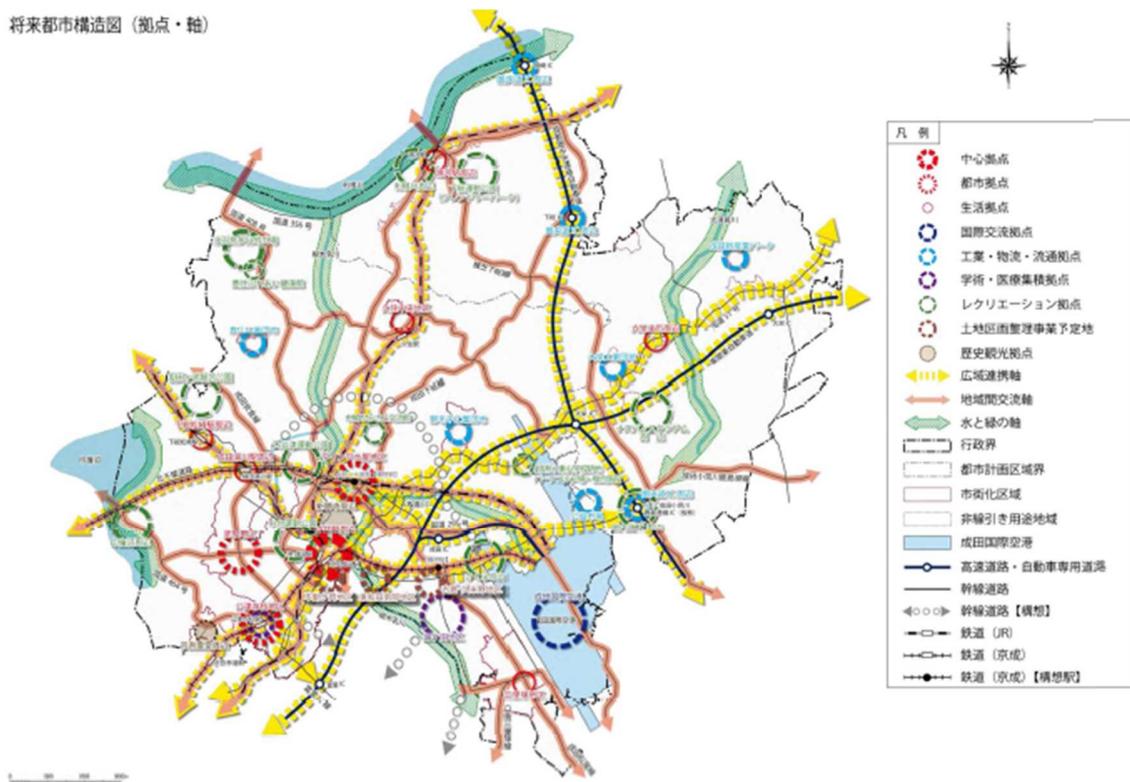


(出典：四者協 成田空港周辺の地域づくりに関する「実施プラン」令和6年9月改訂版より抜粋)

加えて、千葉県及び成田国際空港株式会社は、令和6年7月に公表された「新しい成田空港」構想とりまとめ 2.0 において、「エアポートシティ」実現に向けて、千葉県と空港会社が中心的役割を担う体制のもと、関係自治体と連携し検討していく姿が1つの方法として示されたことを受け、エアポートシティのビジョンやゾーニング案の策定、実施プランに掲げる国際的な産業拠点形成、地域公共交通ネットワークの構築など、広域的な調整が必要な取組を加速化するための推進体制について、具体的な検討を開始し、令和7年4月には推進主体の設立が予定されています。

本市においても、更なる機能強化や同構想による効果を、空港のみならず周辺地域にも最大限波及させるため、暮らし・産業・インフラの各分野における取り組みを推進するとともに、成田空港を核としたエアポートシティの実現により、将来を見据えた広域的なまちづくりが推進されるよう、関係機関と連携を図りながら積極的に取り組んでいきます。

将来都市構造図（拠点・軸）



(出典：成田市 成田市都市計画マスタープラン 2023 より抜粋)

6. 財源の検討

本市の財政は、空港関連税収をはじめとして、景気に左右されにくい固定資産税を基調に全国有数の財政力を堅持し、各種財政指標の数値を見ても財政の健全性が維持されており、歳入面においては、個人市民税及び法人市民税が順調に回復するなど、長期化していたコロナ禍の影響を払拭するに至っています。一方、歳出面においては、高齢化の進行及び子育て施策の拡充などに伴う扶助費などの義務的経費が増加傾向にあることに加え、将来を見据えて取り組んでいる各種事業のほか、公共施設の長寿命化や更新など、より一層の効率的な財政運営が求められています。

このことから、地域振興メニューの具現化に当たっては、市税、国庫支出金、県支出金、地方債、使用料等の財源のほか成田市空港周辺対策事業基金を最大限有効に活用するとともに、騒音地域住民の生活環境の保全、地域振興などに関する新たな財源について調査・研究します。

ア. 成田国際空港周辺対策交付金の使途の柔軟化

空港周辺対策交付金は、航空機の騒音等の障害の防止や空港に関連するインフラの整備に充てるため普通交付金及び特別交付金が交付されていますが、成田空港の開港から45年以上が経過し、インフラ等の整備状況や少子高齢化などの社会情勢が変化していることから、教育、医療、社会福祉など空港周辺地域の地域振興に資する事業に対して普通交付金及び特別交付金が充てられるよう、引き続き成田国際空港株式会社に求めていきます。

イ. 新たな財源の調査・研究

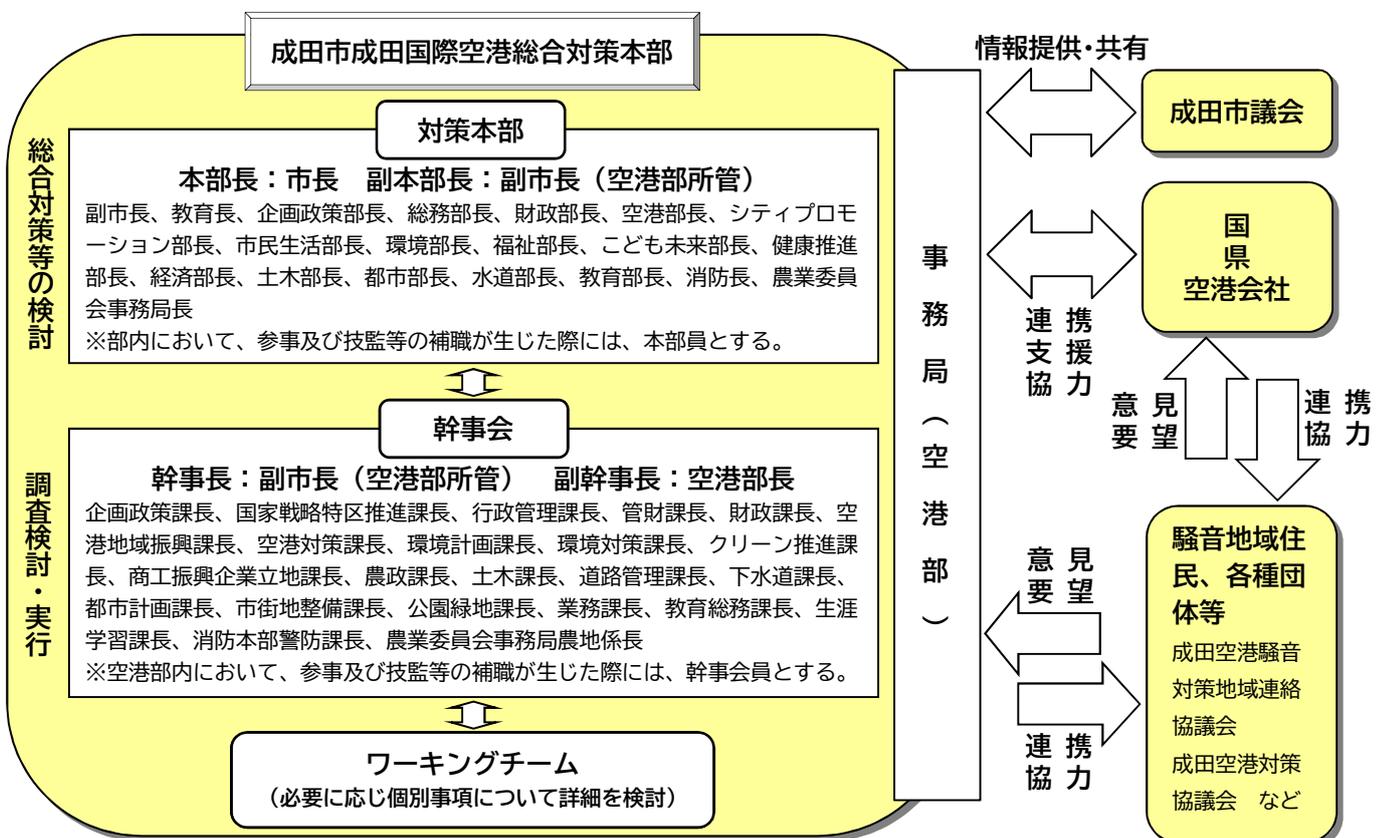
騒音地域住民の生活環境の保全や地域振興などに関する新たな財源について調査・研究します。

7. まとめ

本調査における地域振興メニューは、「豊かな自然と地域文化が息づく郷土の魅力
を次世代につなぐ」という地域振興の目標の実現に向けて、「地域コミュニティ機能
の維持・充実」と「地域への来訪促進」の2つの地域振興の方向性のもとに、ニーズ
調査や地域資源の分析結果のほか、既存事業の実施状況や他団体での地域活性化の事
例等を勘案し、地域振興策をとりまとめたものです。

地域振興メニューの具現化に当たっては、より詳細な事業内容の検討や課題の整理、
制度設計などに加え、実施に向けた地域住民等との合意形成も必要となります。また、
事業担当課においては、各課の事業計画に基づき事務事業が進行していることから、そ
の実施状況などを踏まえた調整のほか、地域振興メニューを具現化する順序について
も調整が必要となります。

このことから、今回の地域振興メニューの検討に当たっては、成田市成田国際空港
総合対策本部（以下「総合対策本部」）において、情報共有・合意形成を図ってきまし
たが、地域振興メニューの具現化に当たっても引き続き、総合対策本部を活用し、庁
内の情報共有・合意形成を図るとともに、地域振興メニューの内容に応じて総合対策
本部設置要綱第5条第9項の規定に基づくワーキングチームを組織し、関係各課の連
携により、全庁横断的に地域振興メニューの具現化に取り組んでいきます。



騒音地域における環境整備調査
報告書

発行 成田市
編集 空港部空港地域振興課
〒286-8585
成田市花崎町 760 番地
TEL. 0476-20-1520
発行日 令和 7 (2025) 年 3 月

